

ボランティアをディベートする（2年）

秋山 寿彦・鮫島 朋美・西村 圭一
星野あゆみ・山根 正博

1 1回生の国際教養のこれまでの流れ

1回生1年次の国際教養では、ディスカッション能力や課題追究能力の基礎を培う段階と位置づけ、チームで考え、伝え合う活動を主軸に学習を進めてきた。その詳細は、表1の通りである。

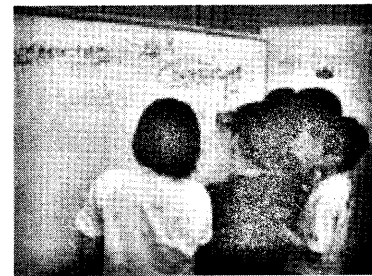
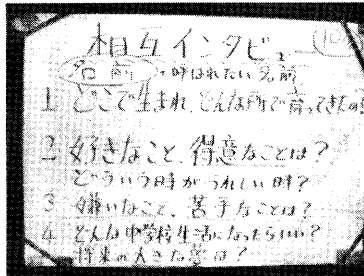


表1 ISS 1回生 1年次の国際教養

月	内容	テーマ	主たる活動
4月	グループエンカウンター	お互いを知ろう	
	フィールドワーク0	学校生活の舞台となる大泉学園駅周辺とはどのような地域なのか フィールドワークしてみよう	危険マップづくり (チームで調べる、まとめる、伝え合う)
	学習ガイダンス(AOI導入)	ISSの学びとは	新聞をスクラップし、5領域に分類する
5月	フィールドワーク0のまとめ	安全という視点から身近な地域の特色を考えていこう	練馬区まちづくりセンター杉崎さんに、大泉地区の安全上の問題についてのレクチャーを聞く。
	フィールドワーク1	人に伝える	(東京国立近代美術館、リスピーア)
6月	ワークキャンプ事前学習	チームで考え、まとめ、伝え合おう	チーム毎の問題解決と発表
7月	ワークキャンプ	Your Quest, Our Quest ～探してものは何ですか～	チーム毎の問題解決と発表 (チームで考え、まとめ、伝え合う)
9月	ワークキャンプの事後学習 (スクールフェスティバル)	Your Quest, Our Quest ～探してものは何ですか～	ワークキャンプの学習成果を発展させ、発表
	フィールドワーク2	文化の違いを感じよう	東京都心(銀座・築地・月島)と下町(浅草・上野)をフィールドワーク
10月	フィールドワーク2の事後学習	フィールドワークでの発見を新聞で伝えよう	新聞作り
	大泉中 PTA 教養委員会講演会	「絵はがきにされた少年」の著者・藤原章生さん(毎日新聞外信部)とアフリカを学ぶ	

11月	テンプル大学学長・パタソン先生の講演会	ISS 生への期待	
12月	フィールドワーク3	東京で世界の料理をフィールドワークしてみよう	グループ別
1月	フィールドワーク2の事後学習	フィールドワークでの発見を新聞で伝えよう	作成した新聞を読み、投票
1月 ～ 2月	フィールドワーク3の事後学習	フィールドワークでの発見をポスターセッションで伝えよう フィールドワークでの発見を新聞で伝えよう	ポスターセッション 新聞作り (冊子にまとめる)
3月	1年間の振り返り	私たちは、どれくらい「国際人」となることができたか	

(通年の活動として、新聞のスクラップを行った。)

2年次は、チームで考え、伝え合う活動をより広く展開することをめざす。具体的には、学校内だけではなく、地域社会の中で、考え、その結果を発信し、行動する活動を主軸に据える。その際、何に取り組ませる中でその活動を実現するかが問題となる。今年度は、そのテーマとして、「ボランティア」と「水」を設定した。

前者では、社会のニーズを知り、それに対応する適切な方法を考えること、そして、自分たちで行動することや他者の協力を呼びかける活動などを行う。また、海外教育体験者が在籍するという本校の特徴を生かし、国際的な視点から、日本のボランティアの現状を批判的に検討したり、国際貢献のあり方について考えさせたりする機会も設ける。これは、人間理解と国際理解に位置づけられる。

後者では、身近な水を1つの切り口とし、食糧、環境、人口といった諸問題を考え、自分たちにできることを見だし、行動や発信する活動などを行う。これは、理数探究と国際理解に位置づけられる。その年間指導計画は、表2の通りである。

本時は、前者の「ボランティア」に関わる学習の第14時である。

表2 ISS 1回生 2年次の国際教養

月	内容	テーマ	主たる活動
4月～6月	ボランティア・キャリアガイダンスなど	生きがいて何？	ボランティアについて考え自分のボランティア観を振り返る。
5月	フィールドワーク(鎌倉)	保存地域としての鎌倉について	グループごとのフィールドワーク
6月～10月	理数探究系活動	水について	限りある資源の一つである水について科学的探究を行う。
10月～2月	人生ゲームを通してお金について学ぶ	自分の人生と経済について	
1月～3月	来年度の国内ワークキャンプに向けた準備	国内ワークキャンプに向けて	国際理解・人間理解・理数探究の各コースに分かれて、これまでの活動を深める。

(通年の活動として、新聞のスクラップを行う。)

2 MYPにおける「ボランティア」の位置づけ

MYPでは、活動的かつ責任ある市民を育てるために、ホリスティックな学び (Holistic Learning) の立場から、知識、スキル、国際感覚、批判的思考などをダイナミックに融合することが強調されている。そして、教科学習に加えて、生徒の知的、社会的発達を促すために、カリキュラムの中心に次の5つの領域を「相互作用のエリア」 (Areas of Interaction) として設定している。

- a. 学習の姿勢 <Approaches to Learning (ATL)>
- b. 地域社会と奉仕 <Community and Service>
- c. 健康と社会教育 <Health and Social Education>
- d. 環境 <Environment>
- e. 創造する人間 <Human Ingenuity>

特に、地域社会と奉仕においては、「生徒が実体験をすることで、学校を取り巻く世界の認識を高める」や「視野を広げて新たな活動に参加することで、生徒の精神性と社会性を高める」「利他主義的姿勢を奨励し、生徒の責任と自信の念を高め、多様な社会様式や生活様式に対する洞察力を与える」「学校やその他の場所で培われた才能と技能を利用して、生徒が学外の活動に直接参加できる機会を与える」よう計画することが求められている。

日本で、ボランティア活動に携わる人が増えているとは言え、その割合は、欧米諸国に比べると、半分程度と言われている。一方で、生徒が社会で活躍する頃の日本は、高齢化が一層進み、ボランティアの必要性は現在と比べものにならないほど高まっていると考える。

総合的な学習の時間等で、ボランティア活動を体験させることは多くの学校で行われている。しかし、単なる体験にとどまっていたら、MYPの理念の実現、すなわち、活動的かつ責任ある市民を育てることにはつながらない。ボランティアの必要性を理解するとともに、ニーズを熟慮し、適切な方法を見つけ、実際に行動することの困難さを体験することが重要だと考える。

なお、1年次の国際教養とMYPとの関連は表3に示した。

3 本時の位置づけとねらい

ボランティアについての学習を始めるにあたって、4月当初の生徒たちのボランティアについての意識調査を行った。その結果は、表4の通りである。体験してみたいボランティア活動を挙げさせたところ、「ボランティア活動」について抱くイメージがステレオタイプ化しており、清掃活動、植林といったものが多く挙げられた(表4のアンケート項目4)。清掃活動はボランティアではないというつもりはないが、社会への関わり方の選択として、やや安易な選択となっている感は否めない。この結果をふまえて、5月には、大泉学園ボランティアセンターの武石玲子氏、同歩会の久慈美奈子氏を招き、ボランティアについて

4月からのボランティアについての流れ	
4月17日(木)	ボランティアに関するアンケート
4月21日(月)	アンケートの結果を踏まえて、ボランティアについて考察する。
5月1日(木)	ボランティアについての講演
5月8日(木)	講演についての振り返り
5月19日(月)	ボランティア希望調査
5月22日(木)	ボランティア希望調査振り返り
6月2日(月)	ディベート班分け
6月5日(木)	ディベート準備
6月9日(月)	ディベート準備
6月12日(木)	ディベート準備
6月16日(月)	ディベート準備
6月19日(木)	ディベート 組み合わせ①
6月20日(金)	ディベート 組み合わせ②
6月21日(土)	ディベート 組み合わせ③ 本時

の講演を行った。この講演は、生徒のボランティア観に揺さぶりをかけ、ボランティア活動の意義の捉え直しのきっかけとなることを意図したものであった。

本時はこの流れの延長線上にある活動である。本時では、ディベートを通して、ボランティアの意義を見つめ直すことを目指している。自分で調べ、自分で考え、自分で判断していく中で、ボランティア活動の意義、自分と社会の関わり、あるべき社会のありようについて、自分なりに考察を深めていく緒となることを期待している。

4 授業展開

時間	生徒の活動	留意点																
0分	<p>ディベート組み合わせ③を行う</p> <p>論題「日本では、ボランティア活動を行っている人を入試や就職で優遇するべきだ。」</p> <p>ジャッジ・聴衆となった生徒もフローシートを記入する。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">①肯定側立論 3分</td> <td style="width: 50%;">⑨否定側第一反駁 2分</td> </tr> <tr> <td>②否定側準備時間 1分</td> <td>⑩肯定側準備時間 2分</td> </tr> <tr> <td>③否定側質疑 2分</td> <td>⑪肯定側第一反駁 2分</td> </tr> <tr> <td>④否定側準備時間 1分</td> <td>⑫否定側準備時間 2分</td> </tr> <tr> <td>⑤否定側立論 3分</td> <td>⑬否定側第二反駁 2分</td> </tr> <tr> <td>⑥肯定側準備時間 1分</td> <td>⑭肯定側準備時間 2分</td> </tr> <tr> <td>⑦肯定側質疑 2分</td> <td>⑮肯定側第二反駁 2分</td> </tr> <tr> <td>⑧否定側準備時間 1分</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(合計 28分)</p> <p>ディベート終了</p>	①肯定側立論 3分	⑨否定側第一反駁 2分	②否定側準備時間 1分	⑩肯定側準備時間 2分	③否定側質疑 2分	⑪肯定側第一反駁 2分	④否定側準備時間 1分	⑫否定側準備時間 2分	⑤否定側立論 3分	⑬否定側第二反駁 2分	⑥肯定側準備時間 1分	⑭肯定側準備時間 2分	⑦肯定側質疑 2分	⑮肯定側第二反駁 2分	⑧否定側準備時間 1分		<p>ディベートの巧拙よりも、自分のボランティア観と議論の中で出てくる意見を比較することも意識するよう指示する。</p>
①肯定側立論 3分	⑨否定側第一反駁 2分																	
②否定側準備時間 1分	⑩肯定側準備時間 2分																	
③否定側質疑 2分	⑪肯定側第一反駁 2分																	
④否定側準備時間 1分	⑫否定側準備時間 2分																	
⑤否定側立論 3分	⑬否定側第二反駁 2分																	
⑥肯定側準備時間 1分	⑭肯定側準備時間 2分																	
⑦肯定側質疑 2分	⑮肯定側第二反駁 2分																	
⑧否定側準備時間 1分																		
35分	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(ジャッジ担当)</td> <td style="width: 50%;">(ジャッジ以外の生徒)</td> </tr> <tr> <td>ジャッジについて、話し合う。</td> <td>自分のボランティア観に対して、インパクトのあった意見についてメッセージを送る。</td> </tr> <tr> <td>ジャッジがまとめ次第、付箋紙を貼る。</td> <td>(一人一人の意見を付箋紙に書き込み、所定の位置に貼る。)</td> </tr> </table>	(ジャッジ担当)	(ジャッジ以外の生徒)	ジャッジについて、話し合う。	自分のボランティア観に対して、インパクトのあった意見についてメッセージを送る。	ジャッジがまとめ次第、付箋紙を貼る。	(一人一人の意見を付箋紙に書き込み、所定の位置に貼る。)											
(ジャッジ担当)	(ジャッジ以外の生徒)																	
ジャッジについて、話し合う。	自分のボランティア観に対して、インパクトのあった意見についてメッセージを送る。																	
ジャッジがまとめ次第、付箋紙を貼る。	(一人一人の意見を付箋紙に書き込み、所定の位置に貼る。)																	
45分	<p>ジャッジを発表する。</p>	<p>次時にディベート全体の振り返りを行うことを予告する。</p>																
48分	<p>月曜に行う予定の、ディベート全体の振り返りのために、送り残したメッセージを付箋紙に貼る。</p>	<p>振り返りのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベートの作業を通して、ボランティアについて考えたこと ・他の班のディベートを通して、ボランティアについて考えたこと ・付箋紙を見て、ボランティアについて考えたこと 																

5 公開授業以後の展開

公開授業後はディベートの振り返りを行った。その一部を以下に載せる。

立論の作業を進める中で、自分のボランティア観が変わるような発見はなかったか？

(「日本ではボランティア活動を学校の授業中に行うべきだ。」 肯定側で立論した生徒)

ボランティアは行うことに意味があるのだと私は考えた。どんなに強制的でも、行うことで得られないものはないと思うから。でも、もし私が否定側であつたら自由に行うべきだと今でも思っていたと思います。

(「日本ではボランティア活動を学校の授業中に行うべきだ。」 肯定側で立論した生徒)

あまり変わらないが、私も多少、強制になってボランティアをやるのはどうかと思っていたが、肯定になってからそのような考えがうすれた。

(「日本ではボランティア活動を学校の授業中に行うべきだ。」 否定側で立論した生徒)

最初肯定じゃなく否定になった時は肯定側の意見に賛成する考えしか持てませんでした。しかし否定側として資料を探したりしているうちに、私は学校でボランティアをしてくれればきっかけになってうれしいけど、ボランティアは学校で強制させられるものではないんだなと思いました。学校でやることになる、やりたくない人は強制させられることになるのでだめなんだなあと分かりました。

(「日本ではボランティア活動を行っている人を入試や就職で優遇するべきだ。」 否定側で立論した生徒)

大きな発見はボランティア人口が増えていることだ。今までずっとボランティアをする人は減少しているものと思っていたので、意外な結果に驚いた。また a の肯定側 (引用者注 「日本はすべての人にボランティアを義務づけるべきだ。」の肯定側) の意見を聞いて、義務でやっても、それでコミュニケーション力が高まるならばそうした方がいいのかもしれないと思った。

(「日本はすべての人にボランティアを義務づけるべきだ。」 否定側で立論した生徒)

私のやった論題は「日本のすべての人にボランティアを義務づけるべきだ。」でした。私は否定側が有利だと思ってしまいましたが、立論をやっているうちに、ボランティアの種類とかをあらためて分かったので、ボランティアを義務づけることも悪くはないなあと思いました。

(「日本はすべての人にボランティアを義務づけるべきだ。」 肯定側で立論した生徒)

特に変わらなかった。が、資料を集めているときに、日本はボランティアについて他の先進国よりとても遅れているということを知った。1 学期の最初の方は、学校の中などで半強制的に行うべきではないと考えていた。しかし、立論の作業を進める中で半強制的であっても、そのような取り組みの中で自主性が育まれるとも考えられるので、それはそれでいいのかなーと思えるようになった。

その後、比較的時間の余裕のある夏季休暇中に、ボランティア活動を体験できるよう、6 月末から7月中旬にかけて、ボランティア活動の受け入れ先を、生徒に探させた。まずやりたいボランティア活動について調査を行った。諸般の事情 (やりたい活動はあるが中学生ではできないなど) によりボランティア活動を希望しない生徒もおり、そういった生徒に無理に体験させるのはボランティア活動の本来の趣旨に外れてしまい、ボランティア活動を希望しない生徒と受け入れ先の双方に不幸な結果となってしまう。そうした生徒には関心のあるボランティア活動について、インタビュー取材の申し込みを行うように指導した。最初の調査の結果は次の通りである。

ボランティア活動希望		インタビュー希望	
植林	21人	動物保護	5人
保育園・幼稚園	17人	ボランティアコーディネーター	5人
環境美化	10人	ホームレス支援	4人
動物・生物関係	7人	環境	4人
募金活動	6人	スポーツ	3人
花壇整備	6人		
スタジアム・球場清掃	4人		
海岸清掃	5人		
老人ホーム	5人		
マラソン補助	1人		
美術館関係	1人		

(当日欠席の者を除く)

近年マスコミなどで環境問題が頻繁に取り上げている影響からか、環境に関係した活動の数値が高い。同じボランティアをやるなら、より世の中の役に立つものをとという考えなのかもしれないが、中学生を植林活動に携わらせてくれるところはあまりない。本人の希望をもとに、実際に中学生でも行える活動を探させると、場合によっては活動内容を変更せざるを得ないケースも少なくない。生徒の希望とボランティア団体の現実をすりあわせた結果、今年は以下のジャンルの団体について、ボランティア活動を行う生徒を受け入れていただくことになった。

ボランティア活動希望		インタビュー希望	
環境整備	37人	ボランティアコーディネーター	5人
保育園・幼稚園	17人	ホームレス支援	4人
緑化	8人	動物保護	5人
募金	6人	スポーツ	3人
生物関係	6人		
老人ホーム	5人		
ベルマーク	3人		
難病支援	2人		
使用済切手回収	2人		
マラソン支援	1人		
美術館	1人		

二学期以降は、国際教養の年間計画に沿って、「水」に関する学習と並行しながら、ボランティア活動の経験を次の学年に引き継ぐべく、自分たちの経験したボランティア活動についてのCM制作を進めている。

(表3) ISS 1 回生 1 年次 国際教養とMYPの関連

月	内容	テーマ	活動単位	主たる活動	学習戦略・学習への姿勢	地域奉仕活動(コミュニティと奉仕)	健康・社会教育	環境	創造する人間
4月	グループエンカウンター	お互いを知ろう	学年					○ (学校、学級)	
4月	フィールドワーク0	学校生活の舞台となる大泉学園駅周辺とはどのような地域なのかフィールドワークしてみよう	クラス混合チーム (1・2組、3・4組)	危険マップづくり (チームで調べる、まとめる、伝え合う)		△ (危険性を他者に伝える)		○ (身近な地域)	
4月	学習ガイダンス (AOI導入)	ISSの学びとは	学年	新聞をスクラップし、5領域に分類する	○				
5月	フィールドワーク0のまとめ	安全という視点から身近な地域の特色を考えていこう	学年	練馬区まちづくりセンター杉崎さんに、大泉地区の安全上の問題についてのレクチャーを聞く。		△ (地域に根ざした活動の実際を知る)		○ (身近な地域)	
5月	フィールドワーク1	人に伝える	クラス混合チーム (美術館) 個人 (リスピーア)	(東京国立近代美術館、リスピーア)	○ (情報や主張を、聞き手に興味をもたせ、かつ、的確に伝えるための工夫について考察する。)	○ (美術館の解説ボランティアと鑑賞活動をおこなうことにより奉仕的精神を学ぶ。)			○ (科学も、芸術も、人々の創造と発明の才から生まれた産物であるという認識を深め、その社会的背景や人間の精神活動に目を向けるきっかけとする。)
6月	ワークキャンプ事前学習	チームで考え、まとめ、伝え合おう	クラス混合チーム	チーム毎の問題解決と発表	○				
7月	ワークキャンプ	Your Quest, Our Quest ~探してみものは何ですか~	クラス混合チーム	チーム毎の問題解決と発表 (チームで考え、まとめ、伝え合う)	○	○	○	○ (自然環境)	○
9月	ワークキャンプの事後学習 (スクールフェスティバル)	Your Quest, Our Quest ~探してみものは何ですか~	クラス混合チーム	ワークキャンプの学習成果を 発展させ、発表	○	○	○	○ (自然環境)	○
9月	フィールドワーク2	文化の違いを感じよう	クラス混合チーム (1・2組、3・4組)	東京都心(銀座・築地・月島)と下町(浅草・上野)をフィールドワーク	○	△ (責任ある市民的行動がとれるようになる。)		○ (地域の環境)	△ (伝統文化を創造し継承していることの意味を考える。時代を通じた人々の産物と価値観について考える。)
10月	フィールドワーク2の事後学習	フィールドワークでの発見を新聞で伝えよう	クラス内の班	新聞作り	○		△ (社会的場面において、広告・メディアについての影響を考察する。)	○ (地域の環境)	
10月	大泉中P教養委員会講演会	「絵はがきにされた少年」の著者・藤原章生さん(毎日新聞外信部)とアフリカを学ぶ	学年				○ (国際理解)	○ (国際理解)	
11月	テンブル大学学長・パタソン先生の講演会	ISS生への期待	学年		○		○ (国際理解)	○ (国際理解)	
12月	フィールドワーク3	東京で世界の料理をフィールドワークしてみよう	希望に基づくグループ	グループ別	○	△	○	○ (国際理解)	
1月	フィールドワーク2の事後学習	フィールドワークでの発見を新聞で伝えよう	学年・学級	作成した新聞を読み、投票	○		○	○ (地域の環境)	
1月~2月	フィールドワーク3の事後学習	フィールドワークでの発見をポスターセッションで伝えよう	希望に基づくグループ	ポスターセッション	○		○	○ (国際理解)	
		フィールドワークでの発見を新聞で伝えよう	個人	新聞作り (冊子にまとめる)	○		○	○ (国際理解)	
3月	1年間の振り返り	私たちは、どれくらい「国際人」となることができたか	学年・学級		○	○	○	○	○

(表4) アンケート集計結果

合計	男子				女子				合計			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
1①	日頃から、他の人から指示や強制されたり、義務として行動や活動するのではなく、自分で考えて行動や活動するようにしている。											
	2	27	14	0	12	43	9	0	14	70	23	0
1②	みんながいきいきと豊かに生活していくことができるように仲間と支え合い活動している。											
	5	29	9	0	17	34	13	0	22	63	22	0
1③	今、何が必要とされているかを考えながら、よりよい生活を自分たちの手で作り出そうとしている。											
	1	20	20	2	16	31	17	0	17	51	37	2
1④	学校の成績やお金では得られないような出会いや発見、感動、喜びを得ることに関心がある。											
	16	19	8	0	38	24	2	0	54	43	10	0
2①	他の人とともに体を動かすことが好きである。											
	29	10	4	0	39	17	5	3	68	27	9	3
2②	初めて出会った人とも一緒に活動することが好きである。											
	11	21	11	0	27	28	8	1	38	49	19	1
2③	発表やプレゼンテーション活動が好きである。											
	8	13	18	4	20	13	27	4	28	26	45	8
2④	いろいろな活動でみんなをリードしていくことが得意である。											
	5	12	22	4	9	23	26	6	14	35	48	10
2⑤	相手の気持ちを考えながら活動していくことが得意である。											
	4	27	10	1	13	36	13	2	17	63	23	3
2⑥	時間をかけてじっくりと自分のアイデアや考えをまとめていくことが好きである。											
	7	21	15	0	18	25	18	3	25	46	33	3
2⑦	勉強以外に打ち込むことができる好きな活動や得意なことがある。											
	31	10	2	0	48	11	4	1	79	21	6	1
好きな活動、得意なこと												
	ア	スポーツ		34	ア	スポーツ		41	ア	スポーツ		75
	イ	外国語		5	イ	外国語		20	イ	外国語		25
	ウ	イベントの企画立案		1	ウ	イベントの企画立案		9	ウ	イベントの企画立案		10
	エ	イラストやデザイン		3	エ	イラストやデザイン		22	エ	イラストやデザイン		25
	オ	コンピュータ操作		7	オ	コンピュータ操作		13	オ	コンピュータ操作		20
	カ	写真やビデオ撮影		5	カ	写真やビデオ撮影		13	カ	写真やビデオ撮影		18
	キ	合唱や楽器演奏		6	キ	合唱や楽器演奏		21	キ	合唱や楽器演奏		27
	ク	文集や新聞作成		0	ク	文集や新聞作成		4	ク	文集や新聞作成		4
	その他	バードウォッチング、動植物の観察、テニス、水泳、読書、ストーリーを書く、読書、作詞、そろばん、地図、テニス、物語を作る、料理、ロボットのプログラミング、料理、クラシックバレエ、ピアノ、パズル、読書										
3	あなたはこれまで地域社会へ貢献するような活動に参加した経験がありますか。											
	はい	11	いいえ	32	はい	22	いいえ	42	はい	33	いいえ	74
経験した活動												
	ゴミ拾い、老人、小さな子供と話す、赤い羽根共同募金、海外でのボランティア活動、清掃、ベルマーク活動、地域の清掃活動、ベルマーク活動、マイバック運動				ガールスカウトでの募金活動、貧しい地域へ行ってのボランティア活動、募金を集めるチャリティー活動(フリーマーケットの開催)、孤児院・幼稚園・保育園訪問、老人ホームでの劇上演、鮭の放流、清掃活動、老人ホームでの合唱、募金活動、清掃、募金、ペットボトルキャップリサイクル、パスネットなどの使用済みカード回収、ゴミ拾い、清掃活動(公園、海岸、川など)、老人ホーム訪問、デイサービスセンター訪問、災害への募金、植林活動、発展途上国への物資支援							
4	あなたはボランティア活動を体験してみたいと思いますか。											
	9	32	1	1	31	29	4	0	40	61	5	1
どのような活動を体験したいですか。												
	清掃活動、植林、募金、エコ関係、清掃活動、環境問題関係、博物館でのボランティア、老人ホーム幼稚園での読み聞かせ活動、障害者への手助け、お祭りの準備、ゴミ問題、清掃活動、地域の人との交流、植林、清掃活動、植林、体の不自由な人を助けたい、老人介護、カーボンオフセット				温暖化防止、福祉、植林、清掃活動、老人ホームでのイベント、公共図書館での受け付け、貧困で困っている人を助ける活動、福祉関係、清掃活動、海外でのボランティア、募金、発展途上国の支援、マラソン、トライアスロンの手伝い、他の人と関わる活動、清掃活動、障害者への支援、幼稚園、保育園での交流、日本語が話せない人への支援、清掃活動、障害者への支援およびふれあい活動、植林、動物保護、老人ホームでの手伝い、児童労働解決への支援							
体験してみたいとは思わない理由を書いてください。												
	面倒くさいし、お金も出ない、年をとってからやりたい、大人になってからやりたい				時間がないそして時間があってもほかの活動に使いたい、強制してやられるものではない、飽きやすい性格なのでたぶん興味がなくなる、人となはすのは苦手。でもすこしやってみたい。							